

移動手段の提供

商店街の運行する買い物バス

～ 補助金に頼らないコミュニティビジネス ～

1 概要

長崎県五島市(旧福江市:離島)で運行されている買い物バスは、NPO法人「市民バスネットワーク五島」と「ふくえTMO」が運営している乗合バスで、4路線あり1日15便巡回している。運行は地域のタクシー会社4社に委託している。

2 背景ときっかけ

長崎県五島市では、若年層の島外流出で過疎化・高齢化が進んできたことに加え、島外近隣の大手資本による相次ぐ出店や中央病院の移転により、中心市街地の空洞化が進み、商店街を取り巻く環境は厳しい状況になった。そこで、旧福江市が平成12年に中心市街地の活性化策の一つとして巡回バス事業を計画したのがきっかけとなっている。その後、平成15年8月から試験運転を経て、「福江商店街巡回バス事業」がスタートした。

3 取組の内容

1. 買い物バスの運行内容について

対象地域:長崎県五島市(旧福江市)

取組概要:運行ルートは4コース、1コース約20分で1日合計15便が巡回
バス停は設けずにコースのどこでも自由に乗降可能(料金は大人200円、小人100円)

運営形態:地域のタクシー会社全4社と提携し、月ごとの交代制



2. 事業の経緯等について

・平成12年合併前の旧福江市が、中心市街地活性化をマネジメントする組織「ふくえTMO」(商工会議所内の委員会組織の1つ)が補助金主体の「100円乗り合いタクシー事業」を準備するも、既存バス事業者と競合しない運行ルートを設定すること等の制約があり、断念。

・平成15年に事業主体を「福江商店街連盟」に移し、町内会、老人会、婦人会も巻き込んで「福江中心商店街巡回バス運行協議会」を編成し、コミュニティバス事業をスタート。

・平成20年4月に「NPO法人市民バスネットワーク五島」としてNPO法人化。タクシー会社との契約・資金のやり取りは「ふくえTMO」が行っている。

・「ビジネスとして成立させること」を目標し、事業初年度は約1,200万円規模の事業を翌年度には総予算を半分に縮減。これに伴い、1日の運行便数を20便から15便へと25%減便したにもかかわらず、乗降客は20%アップを実現。

3. 行政との関係について

事業初年度は市から補助金240万円。行政依存の事業とならないよう「ビジネスとして成立させること」を目標とし、商店主ならではの知恵は、利用客の獲得を図るための様々な「企画」を検討、実行中。

4 取組の効果

- 巡回バスの利用者は順調に増加し、年間延べ約2万人。運行開始後3年で延べ約5万人に達した。旧福江市の人口が約2万7千人であることを考えると地域にとって無くてはならない存在となっている。
- 定期的実施しているアンケートでも「気楽に街中での買い物を楽しめることが嬉しい」といった声が多い。
- 福江商店街を巡回することで商店街の活性化にも繋がっている。
- 巡回バスは、生活の利便性を向上させるだけでなく、高齢者の活力をもたらし役割となっている。

5 取組上の工夫

- 巡回バスのコース設定にあたり、協議会や参加するタクシー会社が試運転を何回も繰り返し、利用対象者の居住区域と商店街、公共施設、病院などの行き先をきめ細かく調査し、利用者にとって最適なコースを設定し、効率的に運行している。
- 利用客獲得のため、商店街と連動して様々な「企画」を実施。
(日曜利用者に卵1パックプレゼント、夜市、商店街発行の駐車場券で乗降可能など)

6 今後の展望

- 利用客獲得のため、商店街と連動して様々な「企画」を実施しつつ、単なる「移動手段」としてのバスではなく、商店街と一体感を出すことで親近感や親しみを持たせていく。
- 平成18年からは防犯活動として「子ども駆け込みバス」も開始し、今後は、巡回バス利用者に「生ゴミ処理機」の利用を促進してもらう「エコプロジェクト」も検討していきたい。

7 参 考

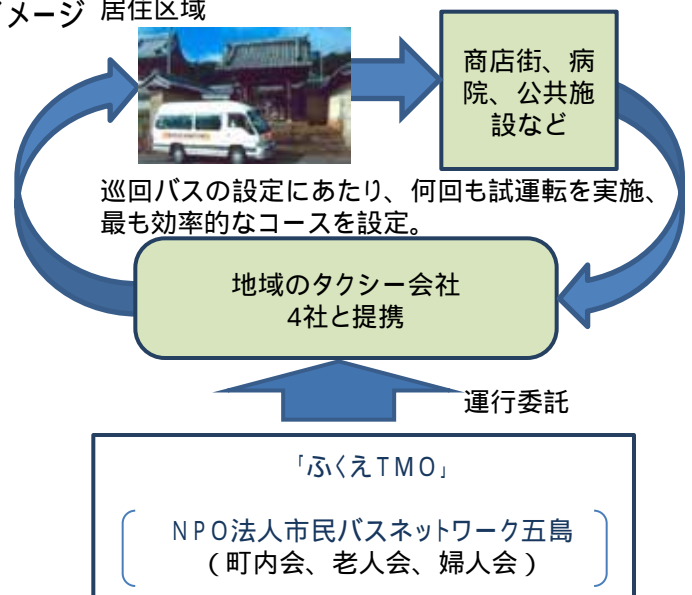
五島市福江地区の概要

- 人 口： 26,311人
- 世 帯 数： 11,131世帯
- 面 積： 158.45m²
- 高齢化率： 27.1% （平成17年度現在）

旧福江市：長崎県五島列島西部の福江島

福江商店街連盟：11の商店街、
約270店舗から形成

■ 事業イメージ 居住区域



【問い合わせ先】 NPO法人市民バスネットワーク五島
住所：長崎県五島市中央町6番地16 電話：0959-72-3145